

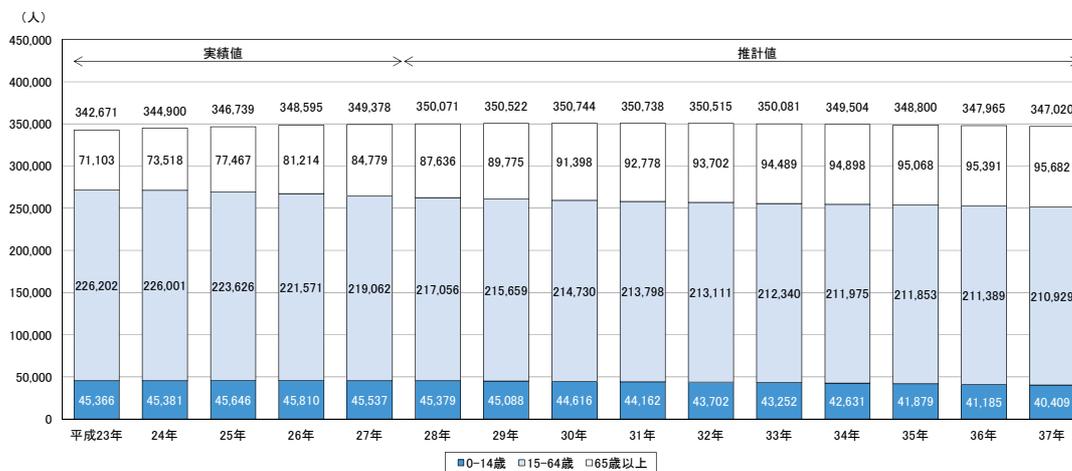
第2章 現状と課題

1 社会環境の変化を踏まえた現状と課題

(1) 少子高齢化の進行

本市の総人口は、平成30年にピークを迎え、その後は減少に転じると推計されています。また、人口構成の推移をみると14歳以下の年少人口は減少し、65歳以上の高齢者人口が増加することが推計されています。少子高齢化や人口減少が進行していく中で、子育て支援のあり方、高齢者の福祉・医療・介護等の社会保障等、多くの問題があります。

子どもを安心して生み育てられる環境を整えるとともに、市民一人ひとりが生涯を通して心身ともに健康で、生きがいを感じながら生活できるよう、世代を越えて支え合える地域づくりを進めることが必要です。



川越市の人口推計結果

出典：川越市政策企画課調べ

（２）地域社会・家族形態の変化

少子化や核家族⁵化、都市化等の影響により、地域社会や家族の形態が変化しています。価値観やライフスタイルが多様化する中で、世代間交流の減少や地域の人間関係の希薄化が指摘されています。

また、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」を契機に、地域の人々のつながりや支え合いの大切さが再認識され、地域コミュニティの強化が求められています。

（３）高度情報化の進展

ICT⁶の進歩は、インターネットやスマートフォン等を急速に普及させ、生活の利便性を向上させるとともに、市民の社会生活のあり方を大きく変化させています。

高度情報化に適切に対応するため、必要な情報を識別・認識し、活用する能力を身につけることが必要となっています。

また、利便性向上の一方で、情報の氾濫や個人情報の流出、インターネット等を利用した犯罪やいじめ等の新たな問題も生じており、情報セキュリティ、情報モラル⁷等の対応が求められています。

（４）国際化の進展

国際化の進展により、地域経済、教育、文化、様々な社会参加等の面で「多文化共生⁸」が重要視されています。

また、平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機として、今後、更なる外国人観光客の増加が見込まれます。

国際的視野を持ち、異なる言語や文化、価値観に対応できる、世界に通用する人材の育成が求められています。

⁵ 核家族

1組の夫婦と未婚の子どもだけによって構成される家族のこと。

⁶ ICT

Information and Communication Technologyの略。情報（Information）や通信（Communication）に関する技術の総称。

⁷ 情報モラル

情報社会において、被害者や加害者にならないようにするための考え方や態度。

⁸ 多文化共生

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

(5) ライフスタイルや価値観の多様化

人々のライフスタイルや価値観が多様化し、余暇時間を有意義に活用して趣味やスポーツを楽しむ等、物の豊かさよりも心の豊かさを重視した成熟社会へと変化しています。

今後は、市民それぞれのニーズに応じた学習活動を、いつでも、どこでも行える環境作りが求められています。

(6) 環境問題等の深刻化

現代社会は、環境問題、エネルギー問題、食糧問題等様々な課題に直面しており、市民の関心も高まっています。

今後は、市民一人ひとりがこれらの問題を意識し、理解を深め、具体的な行動に取り組むことが求められています。

(7) 子どもの生活環境の変化

近年、少子化や高齢化、核家族化の進行、共働きの家庭の増加、ゲームやパソコン・テレビに依存した生活等を背景に、家族のふれあいの機会や生活体験を積み重ねる機会が減少しています。また、親子の育ちを支える人間関係が弱まり、子育てについての悩みや不安を多くの家庭が抱え、子どもの社会性や自立心などの育ちをめぐる課題等が生じています。

子どもたちとのふれあいの機会の増加や子どもを持つ家庭への支援が必要です。

2 川越市の生涯学習の現況

(1) 平成25年度生涯学習に係る市民意識調査

①調査概要

この生涯学習に係る市民意識調査は、4年ごとに実施している定期調査です。市民の生涯学習に対する意識と実施状況についての経年変化を調べることを基本とし、行動の具体的な傾向や学習ニーズを把握するために、実施しています。

- 1) 調査対象地域：川越市全域
- 2) 調査対象：川越市在住の満20歳から79歳
(平成25年10月1日現在)
- 3) 配布数：3,000人
- 4) 抽出方法：川越市住民基本台帳から無作為抽出
- 5) 調査方法：郵送による本人記入調査票
- 6) 調査期間：平成25年10月1日～11月5日
- 7) 回収率

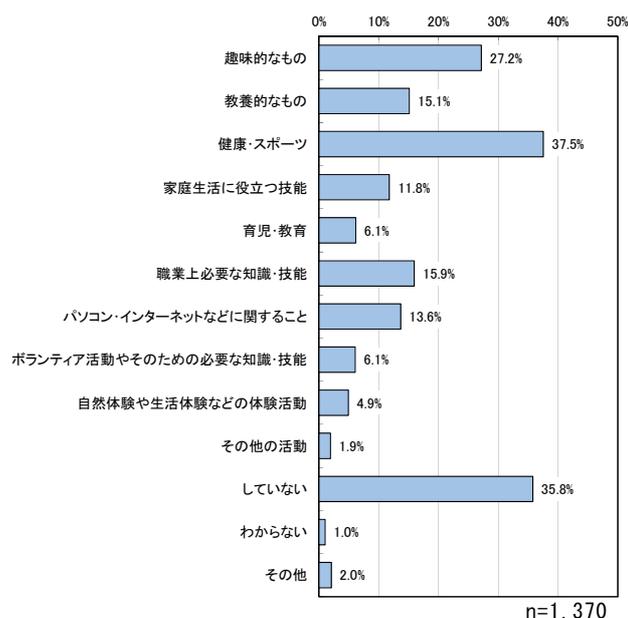
	配布数(人)	有効回収数(人)	有効回収率(%)
市全体	3,000	1,370	45.7

※各グラフ下のnは回答者数を示しています。

②調査結果概要

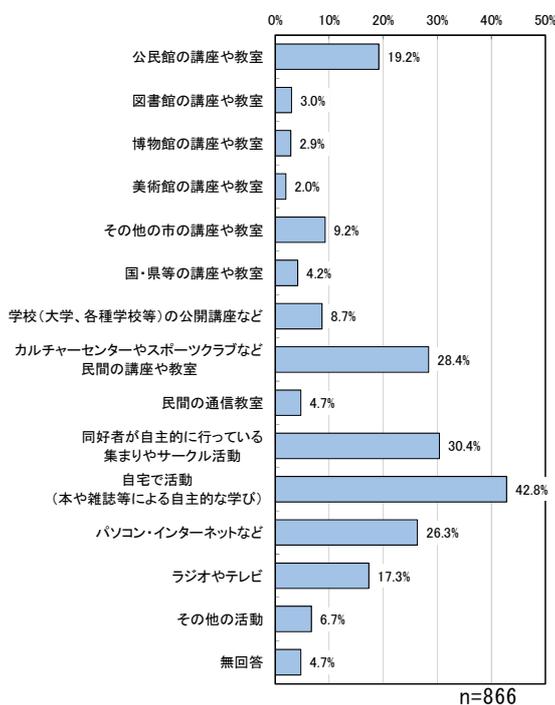
1) 学習の内容

この1年間にどのような生涯学習をしたかについては、「健康・スポーツ」が37.5%で最も多く、次いで「趣味的なもの」が27.2%、「職業上必要な知識・技能」が15.9%、「教養的なもの」が15.1%と続いています。また、「していない」という回答も35.8%で3割を超えています。



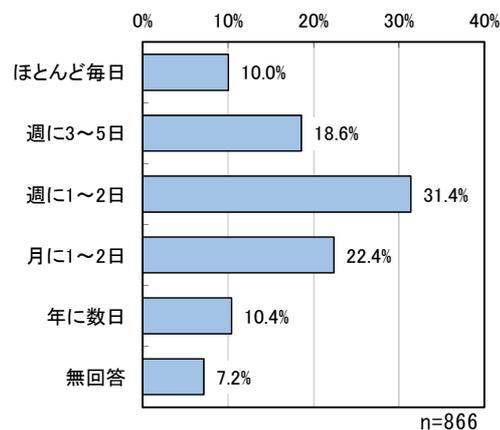
2) 学習の方法

生涯学習をどのように行っているかについては、「自宅で活動（本や雑誌等による自主的な学び）」が42.8%で最も多く、次いで「同好者が自主的に行っている集まりやサークル活動」が30.4%、「カルチャーセンターやスポーツクラブなどの民間の講座や教室」が28.4%、「パソコン・インターネットなど」が26.3%と続いています。



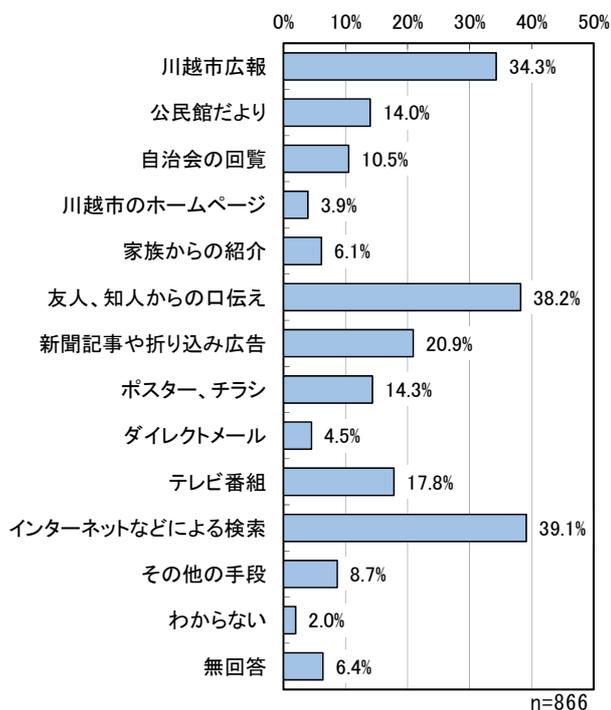
3) 学習の頻度

生涯学習をどのぐらいの頻度で行っているかについては、「週に1~2日」が31.4%で最も多く、次いで「月に1~2日」が22.4%、「週に3~5日」が18.6%と続いています。



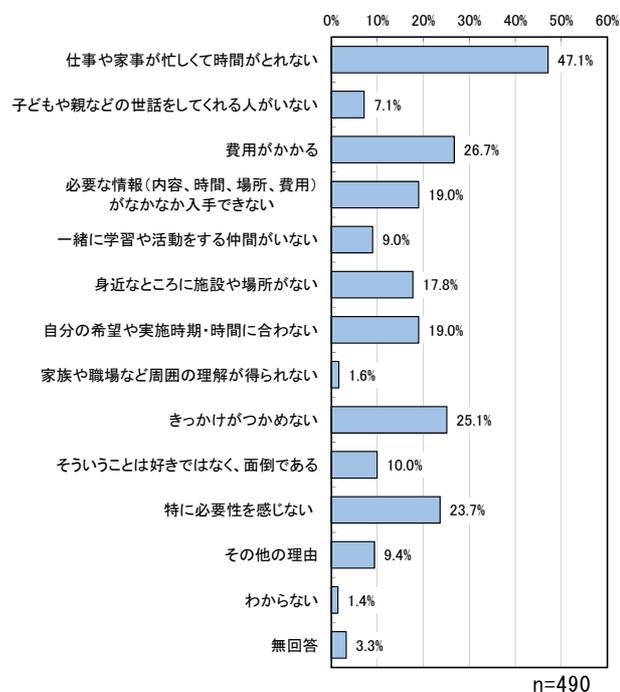
4) 学習情報の取得手段

生涯学習に関する情報をどのように得ているかについては、「インターネットなどによる検索」が39.1%で最も多く、次いで「友人、知人からの口伝え」が38.2%、「川越市広報」が34.3%と続いております。



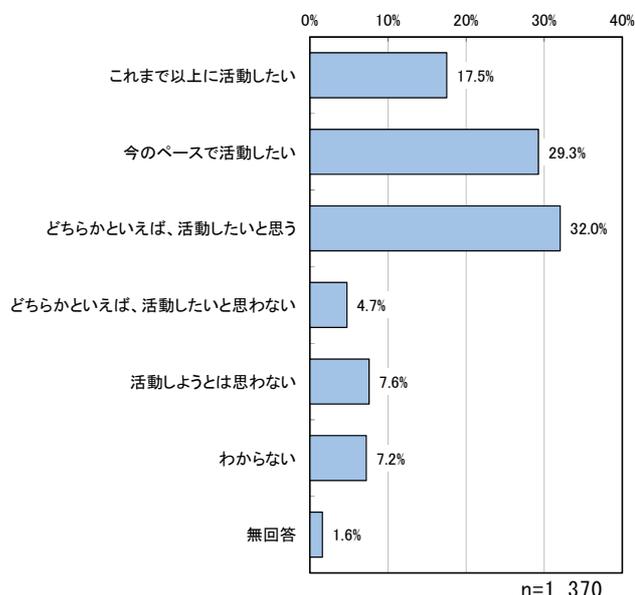
5) 学習をしない理由

生涯学習を行っていない理由については、「仕事や家事が忙しくて時間がとれない」が47.1%で最も多く約5割となっております。次いで「費用がかかる」が26.7%、「きっかけがつかめない」が25.1%と続いております。また、「特に必要性を感じない」という回答も23.7%となっております。



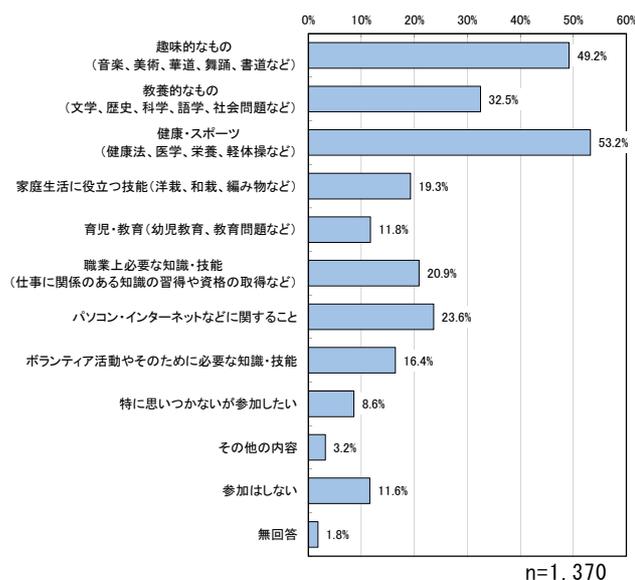
6) 今後の学習

今後、生涯学習活動をしてみたいかについては、「どちらかといえば、活動したいと思う」が32.0%で最も多く、次いで「今のペースで活動したい」が29.3%、「これまで以上に活動したい」が17.5%と続いており、「活動したい」、「活動したいと思う」を合わせると約8割が今後も生涯学習活動をしたいと考えています。



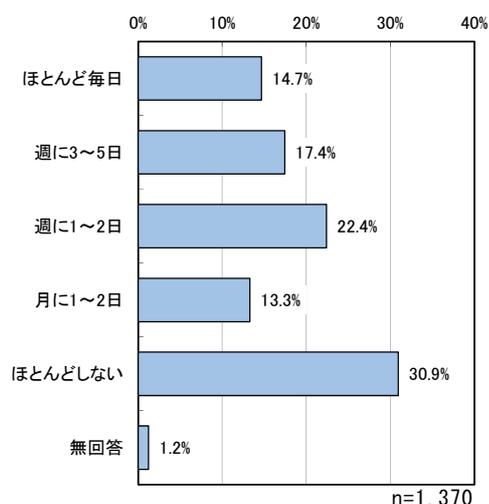
7) ウェスタ川越内の市民活動・生涯学習施設で希望する学習講座

「市民活動・生涯学習施設」で参加してみたい講座については、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、軽体操など）」が53.2%で最も多く約5割を超えています。次いで「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」が49.2%、「教養的なもの（文学、歴史、科学、語学、社会問題など）」が32.5%と続いています。



8) スポーツ活動の頻度

スポーツや運動をどの程度しているかについては、「ほとんどしない」という回答が30.9%で最も多く、次いで「週に1～2日」が22.4%、「週に3～5日」が17.4%、「ほとんど毎日」が14.7%と続いています。



9) 興味がある種目、参加したい種目

スポーツ活動のうち興味があるものはどれかについては、「ウォーキング」が35.6%で最も多く、次いで「ハイキング、ピクニック」が32.3%、「ヨガ」が27.0%、「水泳」が22.6%と続いています。

